

令和6年度第4回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和7年3月13日（木）14：00～16：30

場 所：琉球大学病院4階がんセンター及び各施設（ハイブリッド会議）

出席者：【がんセンター】6名

玉城佐笑美（県立中部病院）、仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、横田美佐（県立宮古病院）、上原弘美（友愛医療センター）、友利晃子（琉球大学病院）

【ZOOM参加】7名

仲宗根恵美（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、富里果林（南部医療センター・こども医療センター）、田場純子（沖縄県保健医療介護部）、西村克敏（地域統括支援センター）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）

欠席者：3名

糸数真理子（那覇市立病院）、間島奈央子（キャンサーフィットネス）、有賀拓郎（琉球大学病院）

陪席者：1名

松田亮子（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和6年度第3回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和6年12月12日）

資料1に基づき、友利委員より、令和6年度第3回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

【協議事項】

1. 次年度の委員の選任について

資料2に基づき、友利委員より、委員構成について確認が行われた。部会長・副部会長は前年度より引き続き任命された。また、次年度の委員変更等あれば事務局まで連絡するよう周知があった。

部会長 琉球大学病院 友利晃子

副部会長 那覇市立病院 仲宗根恵美、県立中部病院 玉城佐笑美

2. 令和7年度の部会計画

資料3に基づき、友利委員より、令和7年度の部会計画について説明があった。次年度はハローワーク等と連携し就労支援相談や勉強会を行う計画を入れている。その他、大久保委員より補足があった。がん従事者研修会について、会の内容については部会委員と協議をしたいこと、会の主催運営は琉大病院が行うこと、1、2回の開催を検討

しており、9月頃に琉大病院主催の研修会と、毎年2月頃に開催される地域相談支援フォーラムへの計2回に参加予定していただきたいとの事だった。

また、院内外への広報に関する進捗として、6拠点病院で使用しているがん相談支援センター案内チラシの改定報告があり変更点について説明があった。各病院へチラシを1000枚配布予定。A0サイズのポスターも作成しており希望者は事務局まで連絡するようアナウンスがあった。ハローワーク等と連携した就労相談については、産業保健総合支援センターやハローワークと連携し患者さん向けのミニレクチャーを各病院で開催する提案があった。

3. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）の進捗について

資料4に基づき、増田委員より、第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）について進捗状況と次年度の審議事項の確認があった。

①相談支援

- 1-1 がん相談支援センターに準じた施設がどのような施設なのか基準を協議する。
- 1-2 治療方針の決定前までに相談センターへ立ち寄った患者の割合。延べ件数を測定する。
- 1-3 認定センター、専門および指導者修了者を増やすにはどうするか。
- 1-4、1-5 ピアサポーターとして活動している人数を増やすためにはどうするか。

②情報提供

- 2-1 音声資料、点字資料、外国語資料をどのように対応・提供しているか報告する。
また、上手く活用するためにはどうするか。
- 2-2 施設の検索数を出してもらう為に部会から県へ働きかけるのはどうか。
- 2-3 ①～④の項目が自施設のホームページで公開されているのか、情報提供できているのか、各施設で確認し次回の部会で報告する。
- 2-4 院内がん登録と医療の質の評価のベンチマーク結果を相談支援にどのように活かしているのか、活かしていくのか審議する。
- 2-5 自施設で、県や地元の市町村、患者会の開催する講演会等の情報を広報しているか。

③デジタル化

- 3-1 なぜインターネット環境を整備できていないのか。
- 3-2 オンラインでの相談ができていないのはなぜか、広報の仕方を検討する。
- 3-3 離島へき地部会で審議する。

④就労支援（医療者側）

4-1～4-3 就労支援に関する相談件数、ハローワークと連携した相談件数が患者の数に対して十分なのか。

⑤就労支援（職場側）

5-1～5-3 両立支援コーディネーターの配置やハローワーク等と協力し就労相談を行うなど部会として沖縄県の経営者協会や各地域の商工会議所に依頼文書を送るなど。

⑥アピアランス

6-1～6-3 各病院で体制を構築しているか。また国立がんセンターのeラーニングを受講した人数を確認する。

⑦自殺対策

7-1～7-3 緩和ケア・在宅医療部部会で審議する。

⑧がん患者の疎外感の解消やがんに対する偏見の払拭

8-1 医療者向け研修会等の開催をするのはどうか。

その他、『外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制を整備する』取り組みの進捗について情報共有がなされた。琉大病院は、主に、医師・看護師・クラークにて相談支援センターの予約を取得し、患者・家族へ案内している。予約日に来室がなかった場合には、患者・家族に相談支援センターへの来室を促すよう電子カルテ上で呼びかけている。

また、医局や看護部への協力依頼、各外来受付・診察室にがん相談支援センターのリーフレットを配置している。中部病院は、診療科や化学療法室にリーフレットを設置したり、告知の時に同席し相談センターの案内をしている。那覇市立病院は告知の時に、がんサポートハンドブック等の資料一式を渡すことになっており、その封筒の表に相談センターの場所を印字し渡している。専門看護師や認定看護師が同席した時に相談室へ連絡があれば相談室で対応している。まだ、立ち寄りシステムについて検討中である。北部地区医師会病院は、告知時に緩和担当から相談センターを案内している。また初回の化学療法時に相談センターから出向き場所の説明と案内をしている。

4. 2025 年度 基礎研修 (3) ファシリテーター推薦について

資料 5 に基づき、大久保委員より、2025 年度基礎研修(3)ファシリテーター推薦について説明があった。オンライン開催で日程は夏ごろ予定しており、推進者の要件に相談の実務者、相談員指導者研修の修了者であることが望ましいとなっている。過去、沖

沖縄県からの参加状況として 2016 年～2019 年は大久保委員、2024 年は友利委員が参加している。友利委員より参加した際の様子と共有がなされた。事前の打ち合わせをオンラインで綿密に行いしっかりとしたマニュアルがあり、ファシリテートのポイントもグループワークの課題ごと設定されている。指導者研修修了された委員で検討いただき、参加可能な方については、期日までに大久保委員までメールにて回答いただくこととなった。

【報告事項】

2. 地域統括相談支援センター活動報告

資料 6 に基づき、西村委員より相談件数及び活動報告があった。10 月は沖縄県地域統括相談支援センター普及を目的にラジオ広報（がん ピア・サポート相談会）を開催。その他、出張ピア・サポート（那覇市立病院で開催）、リレー・フォー・ライフ 2024 沖縄に参加し、がんピア・サロンを開催した。

3. がん患者ゆんたく会（10～12 月）

資料 7-1～7-3 に基づき、令和 6 年 10 月～12 月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院は玉城委員より報告があった。10 月は理学療法士による講演、11 月は栄養士に参加いただき治療で味覚が変わった時の工夫についてアドバイスがあった。12 月はピアサポーターが参加し気持ちの共有できたとの感想があった。3 月はキャンサーフィットネスインストラクターの間島委員によるヨガの講演を予定している。那覇市立病院は仲宗根委員より報告があった。司会をソーシャルワーカーがおこないフリートークで開催した。患者さん自身の体やお薬、食事のことなど日ごろ疑問に思っていることを共有した。琉球大学病院は友利委員より報告があった。10 月は臨床研究教育管理センターの講師を招き、治療薬が皆さんに届くまでに患者や市民がどのように関わっているのか講演いただいた。参加者は関心ながら熱心に聞いていた。11 月はがん看護専門看護師によるアピアランスケアに関する悩みについて講演いただいた。ウィッグ購入のポイントやスキンケア、メイク用品について質疑応答を行った。12 月、1 月は琉大病院の移転に伴い開催中止となっており 2 月から再開している。

4. がん相談件数（10～12 月）

資料 8-1～8-6 に基づき、令和 6 年 10 月～12 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

相談内容に変化はなかった。訪問看護や介護保険の相談が多く在宅療養の相談も増加傾向にある。生活保護を受けている患者さんの治療や訪問診療の調整に時間のかか

った事例があった。

○県立中部病院（玉城委員）

外来患者の相談が多かった。告知後の治療の選択を迷っている方や治療終了が近い方の今後の療養先調整や意思決定をおこなった。また、セカンドオピニオン案内後、当院提案の治療について納得し治療再開をされた患者さんがいた。

○那覇市立病院（仲宗根委員）

データの台帳が壊れているため 10 月 11 月は相談件数のみの報告、12 月は手計算で集計している。利用回数はリピーターが多く入院患者の相談が多い。相談内容では緩和ケアの相談が多いため在宅医療やホスピス、食事や入浴の相談が多かった。

○県立宮古病院（横田委員）

離島のためケアマネージャーが少なく地域包括支援センターと連携し調整する事案が多かった。高齢化が進んでいるため療養先の調整が難渋している。また告知後の対応で精神科の先生に入っていただき対応したケースがあった。

○県立八重山病院（岩崎委員）

相談内容に大きな変化はなかった。電話相談からピアサポーターへ繋いだ事案や、薬が高額なため支払いについて相談があり地域連携室の医療ソーシャルワーカーと連携し対応した事例があった。

○琉球大学病院（大久保委員）

12 月は移転の影響で診療制限があり減少している。11 月は院外からの問い合わせが多く、内容は琉大病院への受診方法に関することが多く、外国人の受診や海外からの親族の呼び寄せに関連した受診相談もあった。増田委員より照会のあった今年度 1 月末までのオンライン相談件数は 5 件、2 件は患者・関係者カンファレンス、3 件は個別相談になっている。

5. がん相談件数集計（7～9 月）

資料 9 に基づき、友利委員より、各拠点の令和 5 年度・令和 6 年度上半期の集計比較について報告があった（那覇市立病院の令和 6 年度 8 月 9 月分は、データ消失のため反映されず）。相談件数は前年度より増加。がん相談支援センターの情報入手経路は担当医が最も多く、治療開始前までにがん相談支援センターへの立ち寄りを周知する取り組みの影響と考えられる。がんの部位は大腸がんが最も多く、次いで肺がん、乳がんとなっている。相談内容は不安・精神的苦痛、ホスピス・緩和ケア、在宅医療が多か

った。

6. がん相談支援センターの広報

資料 10 に基づき、友利委員よりがん相談支援センターの広報について報告があった。毎週掲載するよう依頼している。引き続き広報依頼を行う。

7. 第 2 回がん相談従事者研修会について

資料 11 に基づき、大久保委員より、3 月 1 日開催の第 2 回がん相談従事者研修会の報告があった。障害年金をテーマにオンラインで実施した。参加者 23 名で動機が「プログラムの内容にひかれた」との回答が多かった。今回は受講証を希望者制にしたところ、希望者は 15 名と、全員が必要とはしていない事がわかった。

申込者の内訳は看護師、社会福祉士が多く心理士の参加もあった。研修会の課題として、オンラインでは欠席率が高く、講義資料の扱い方など運営にあたっての取り決めが必要であるとの報告があった。次年度の研修会について対面開催の提案があり承認された。

8. 第 11 回九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラム in 長崎(令和 7 年 2 月 1 日)

資料 12 に基づき、友利委員より報告があった。九州各県の取り組み発表、相談支援における ACP・がん教育について講演があった。ピアサポーターの参加者からは誰のための ACP なのか・医療者寄りではないか、患者の立場でも考えて欲しいとの意見があがった。次年度の開催は鹿児島県主催となっており参加を検討いただきたいと呼びかけがあった。

9. 中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会沖縄支部結成記念セミナー 中皮腫・アスベスト疾患セミナー in 沖縄 (令和 7 年 1 月 25 日)

資料 13 に基づき友利委員より報告があった。今回、患者と家族の会を沖縄県で立ち上げるにあたり、中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会の主催で沖縄支部結成記念セミナーを開催することとなった。セミナーでは沖縄病院の久田友哉先生、河崎英範先生、琉球大学病院の古堅誠先生による講演会と座談会を行った。沖縄支部の連絡先が未だ決まっていないため、相談があればチラシのフリーダイヤル宛てへ連絡いただきたい。連絡先が決まれば部会へ共有する。

10. その他

上原委員より、びあナース主催の講演会について案内があった。3 月 15 日オンラインで開催、がんサバイバーの樋口麻衣子氏による講演会をおこなう。ご自身の体験を交えながら看護師としてサバイバーとして現在どのように活動をされているのか講

演いただく。後日オンデマンド配信も予定している。また、沖縄県の患者会同士で情報共有しており今後イベント等への参加協力依頼があった。

仲村渠委員より、3月4日にがんサロンを開催。次年度は年4回開催予定であると報告があった。

- ・次回開催は、令和7年6月12日（木）14時から開催予定。